



しののめ

平成28年11月28日発行



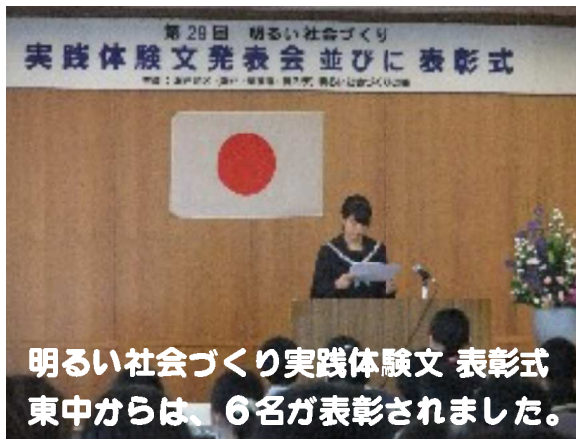
「歴史を刻む」



校長
川本 幸則

東中学校は、開校以来四十一年の年月を経ています。その年月は、様々なところで感じる事ができます。実は、私は開校間もない東中学校を訪れたことがありません。東中学校へ転校した友達の家へ遊びに行ったときに案内してもらいました。フェンスの外から眺めただけでしたが、真新しい校舎をうらやましく思ったことを覚えています。今では、随分古くなってしまいましたが、その分、歴史を刻んでいます。

先日行われた合唱祭では、はじめの全体合唱から素晴らしい歌声が響き、各学級、各学年ともこれまで成果を發揮して、聴き応えのある発表会となりました。特に、三年生は最高学年として自慢できた。



明るい社会づくり実践体験文 表彰式
東中からは、6名が表彰されました。

るものであり、この姿を東中学校の伝統として引き継いでほしいと思います。

明るい社会づくり実践体験文の発表会で、三年生の中野さんが、愛知県社会福祉協議会長賞として表彰され、発表を行いました。会場で聴かせてもらいましたが、胸を熱くするものがありました。作文は本校ホームページ（十一月十日分）に掲載されていますので、ご一読いただきたいと思います。

その作文の中に、次のような文章がありました。

「その人のそばにいてあげる何気ない気持ちだが、きっとその人の重荷を少しずつ軽くしてあげられるはずだ」

一人一人がこんな気持ちで支え合えられたら温かな空気で満ちあふれることでしょう。そんな学校にしていきたいと改めて思いました。

東雲日記

PTAの会合で、とてもいい言葉に触れた▼まず、「定着させることで、（それが）文化になる。」あるPTA会長さんのお言葉だ。どんなにいいことでも、一回限りのなら、それは単なるイベントで終わってしまうが、何でも定着すれば、文化として根付くということだろうか。納得▼もう一つは、会の最後のご指導のお言葉、「親がしなければ、子どもはしない！」これもまた、納得。「あれしなさい！」「これしなさい！」という前に、子どもと一緒にやってみる。これぞ、子育ての極意なのかもしれない。家庭でも学校でも、子どもたちの自主性や意欲がよく話題となるが、それを導き出す大人の姿は、あまり語られないものだ▼大人は大人！子どもは子ども！ではなく、大人も子どももという姿勢が家庭や学校に文化となりうる活気を生む。思わず率先垂範（せんせんすいはん）という言葉が脳裏に浮かんでしまった。（奈）

このお便りは、生徒のみなさんと保護者の方々に向けて発行しています。



RENMA



NEWS

< 第23回 スクールフェスティバル 合唱祭ダイジェスト 平成28年10月27日(木) >



今年も、文化会館大ホールに素敵な歌声が響きました！

< 第23回 スクールフェスティバルエンディングセレモニー モザイクアート・生徒会旗 >



披露された生徒会旗

**体育館の東面に掲示されます！年度前期生徒会
な、なんと！作品は、すべて5mm程度のドットからできています。**

【毎日更新中です！東中ホームページ】

東中の子どもたちの素敵なニュースをタイムリーにお届けする「東中ホームページ」…平成23年度9月の開設以来、毎日の更新を続けています。学校だより「しののめ」とともに、ぜひ、ご覧ください。カラー写真等もきれいにご覧いただけます。よろしくお願ひします。

HPアドレス <http://www.owariasahi.jp/higashi-j/> (毎日更新中)

※「尾張旭市立東中学校」で検索クリックすると…HPへジャンプします。



尾張旭市立東中学校 学校だより「しののめ」編集部

〒488-0051 愛知県尾張旭市下井町前の上1602番地

教頭：加藤奈保樹 ☎ 0561(54)6511 FAX 0561(52)290

